

総合的な学習の時間学習指導案

平成15年9月25日(木)第1校時

場所 : 3年C組教室

指導者 : 高橋 郁夫

授業の視点

工夫されたいくつかのスピーチを観察し、ブレインストーミング法とKJ法の話合いの仕方を活用して、相互交流型スピーチとはどんなものを具体的に理解するための話合い活動は、英語で思いや考えをスピーチするために有効な手だてであったか。

題材名 調べたことをスピーチしよう ~ Okinawa ~

題材の考察

1 生徒の実態

(1) コミュニケーションに関する事前のアンケート結果から

人前で話すことに苦手意識をもっている生徒が多く、全体的に受け身的に学習を進める傾向がある。また、ブレインストーミング法やKJ法など様々な話合いの手法を用いて話合い活動を行った経験も少ない。さらに、自分でテーマを決めて英語でスピーチを作り、それを発表したことのある生徒は一人もいなかった。

日頃の英語の授業における表現活動の様子から

日本語を書かずに、考えたことをそのまま英語にしようとする生徒がクラスの中で約三割を占める。特徴として、基礎的な英語表現が使える、表現したい内容を膨らませて書き進めることができる生徒と、文法的な英語表現はできるが、文が続かないで悩んでいる生徒がいる。また、表現したい内容を日本語で書いてある程度まとまった文章にしてから英訳しようとする生徒がクラスの中で約半数を占める。これらの生徒の特徴は、日本語特有の主語がない表現を用いて、主語 - 述語の関係が複雑な長い文を書く傾向にある。さらに、表現したい内容はあるけれども、英語の基礎的な動詞をうまく使えないため、そこでつまずき、表現したい内容を膨らませられなくなってしまった生徒がクラスの中で約2割を占める。これらの生徒は個別指導において、ヒントとして与えると英文を素直に書くが、それを応用できずに迷ってしまう傾向にある。

(2) 教材観

本校の総合的な学習の時間では、生徒一人ひとりの個性を見据えて、生徒がそれぞれの興味・関心に応じて、調べ発表できるように学習活動を計画している。

そこで、「沖縄」を共通の大テーマとし、そこから自分の興味・関心のあるテーマを探し自由にテーマを決め、それについてのスピーチを作成・発表する学習活動を展開する。

「沖縄」を共通の大テーマとした理由であるが、沖縄は、豊かな自然や珍しい動植物、琉球文化や伝統芸能、現代の若者に人気のあるアーティストや戦争による悲惨な歴史など、生徒の興味・関心をひく話材が多いからである。しかも、3年生の英語の教科書でも、異文化を理解することの大切さを学習する題材として取り扱われており、全員の生徒が英語の時間で共通に学習する。これらのことから、沖縄についてはイメージを膨らませやすく、自分の思いや考えをスピーチとして広げる学習活動を展開できるのではないかと考え、本題材を活用することとした。

(3) 指導方針および学習への支援

スピーチすることへの不安を和らげるため、「できた」という満足感を味わわせるために、小グループを作り、少ない人数の前でのスピーチ発表を行ったり、スピーチの後に、質疑応答と感想交流を一言コメントとしてを書く時間帯を設けることとした。特に学習過程の前半で行う対話的活動では、ブレインストーミング法とKJ法を活用しながら積極的に意見交換し、ことばによる交流の楽しさを味わってほしいと願う。

また、英語科との関連から、原稿作りに関しては順調に英語表現ができる生徒には、より工夫された伝達技能はどんなものかを考えさせる。クラスの中には、主語・述語動詞の関係がはっきりとした日本文を各生徒も多い。これらの生徒には主語・述語動詞の関係を明らかに日本語で表現する書くことの練習をさせてから、それを英訳する訓練を行う。

そして、文が続かないで悩んでいる生徒には、事実を列挙することとそれに対する自分の意見を交互に加えるようにさせ、英語での表現力を高めてほしいと願う。そのために事実と自分の意見を述べる必要があるため、I think ~.や Because ~の英文を適当に使うよう繰り返し述べるようにする。さらに、スピーチすることに自信がもてない生徒には、単語を列挙した形の英文でもいいから、スピーチ原稿ができることを確認させたい。そして人前で英語のスピーチを表現できたことの達成感を味わってほしいと願う。

目標及び評価規準

1 目標

自ら選んだヒト・モノ・コトを詳しく調べ、スピーチを作成するための対話的活動ができ、最終的には、英語を使って自分なりの思いや考えをスピーチとして表現することができる。

2 題材における評価規準

評価の観点	評価規準	おおむね満足できる	十分満足できる
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	BS法やKJ法など、話合いの仕方を習得する活動に意欲的に取組むとともに、意見交換を楽しもうとする態度がある。	積極的に自己の意見や考えを述べようとしている。	自分の意見を述べるだけでなく、自他の意見を関連付けながら話合いを進めようとしている。
	スピーチ内容を調べる学習活動では、積極的に情報を集め、自分の考えを深めようとしている。	調べた内容を、自分なりの方法でスピーチを構成しようとしている。	調べた内容に自分なりの見解を加えて、相手を意識したスピーチを構成しようとしている。
コミュニケーションを図るための表現の能力	対話的活動やスピーチ表現の活動において、伝えたい内容を聴き手を意識して効果的に伝える表現ができる。	話す速さ、間の取り方、声量などを意識して話合いやスピーチ表現をすることができる。	話す速さ、間の取り方、声量、非言語、話の構成を意識して話合いやスピーチを表現することができる。
	スピーチを作る活動において、自分の考えを因果律や時系列を意識して分かりやすく、伝えたい内容を構成し、	事実の列挙や時系列のまとまりで表現したり、話材を分類・整理して、伝えるこ	結論とその根拠となる理由を述べられるとともに、ユーモアやエピソードなどを

	表現することができる。	とができる。	取り混ぜながら伝えることができる。
コミュニケーションを図るための理解の能力	対話的活動やスピーチの活動において、相手の意向や大切な内容を正しく理解したり、相手の立場や状況を考えて聴き取ることができる。	話し手の意見や考えを聴き取ろうとポイントを絞ってメモをとりながら聴き取ることができる。	ポイントを絞って聴くことができるとともに、質問したりコメントを述べることができる。
コミュニケーションに関する知識・理解	「聞き取りやすい発音・抑揚」「わかりやすい説明」などの伝達技法の大切さを理解している。	相手が分かりやすい表現技法の仕方を理解している。	相手が分かりやすい表現技法の仕方を理解し、状況に応じて活用できる。
	日本語や外国語の音声、文法、基本的な表現、慣用句、語句、語い等の知識を理解している。	主語・述語が分かりやすい構文を組み立て、理解している。	主語・述語が分かりやすい構文を組み立て、述べるだけでなく、他の表現を使って言い換えるなど豊かな表現方法を理解している。
	相手の立場になって考えたり、傾聴するなど、コミュニケーションする際の基本的マナーや円滑にコミュニケーションを図るための方法に関する知識を理解している。	「聴き手」「話し手」の役割を守り、相互に意見交換することの大切さを理解している。	「聴き手」「話し手」の役割を守り、相互に意見交換することの大切さを理解しているだけでなく、質問や聞き足しなどをして、お互いの考えを深め合うことの大切さを理解している。

3 単元計画 (本時は10時間計画の4時間目)

過程	時	学習内容	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
つかむ過程	1	学習の内容・目的・方法を 知る。	今後の学習への意欲付けを図る。 ・沖縄のイメージを膨らませるため、沖縄の自然・文化・歴史(戦跡)についての視聴覚教材を、ALTとJTEがコント風の英会話で解説していく。	学習に興味をもって意欲的に聴く。 (行動・観察)
		例 シーサーを説明する ALTとJTEがコント風の英会話を行いながら、教材を提示する。これはテンポがいいので、聴く態度や意欲の向上が図れる。ALTはWhatの疑問文を使わない。Is it a dog?とかIs it a lion?など易しい単語を使った英文を多用する。日本語に訳す必要もない。実物や写真を提示したり、分かりやすい英語でジェスチャー等を		学習の内容・目的・方法を理解している。 (ワークシート)

		<p>交えて言い換えることで、生徒は理解できる。</p> <p>また、How about asking this one to the student ? など ALT と JTE の会話に生徒を巻き込むと、さらに意欲的に聴くようになる。</p>	
	2	<p>B S 法と K J 法を使った話合いの仕方を知る。</p> <p>B S 法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて沖縄のイメージを膨らませる。留意点 は、質より量が大切であること、そして、他者の考えを絶対に否定しないことを繰り返し強調する。留意点 は、一人で考える時間と意見を出し合う時間を設ける。大切なのは、一人で考え出した数と協力して出し合った数の差を比較し、一人の考えよりもみんな考えを寄せ集めた方がイメージが膨らむことを実感させる。 K J 法を知る。 ・B S 法の後に行うと効果的であることを確認する。 ・付箋紙とワークシートを用いて、カテゴリーになるとばをはじめに 考えさせる。簡単なクイズを提示し、K J 法のやり方を理解させる。 <p>例 <u>仲間はどれはどれだ。</u></p> <p><u>柿の実 キュウリ オレンジの実 ジャイアントのメガホン</u></p> <p>答え：</p> <p><u>キュウリ（オレンジ色） ジャイアントのメガホン（食べ物）</u></p> <p>ワークシートと付箋紙を用いてのイメージマップを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K J 法を活用し沖縄イメージを分類する対話的活動を実践する。 	<p>課題に対して自分の考えを明確にもつことができる。</p> <p>（観察・ワークシート）</p>
追求する過程	3 4 5	<p>話合いの仕方を活用する。様々スピーチのあり方を考察する。</p> <p>相互交流型スピーチを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式のスピーチを教師が示したり、生徒の模範スピーチビデオで視聴させたり、スピーチ原稿を棒読みしたりすることで、スピーチの質の良し悪しを生徒に発見させるようにする。 ・教科書スピーチの時間的長さ、単語数、英文数などスピーチの量的側面を調べ、今後行う相互交流型スピーチの参考にさせる。 ・つかむ過程で学習した B S 法と K J 法を活用し、よいスピーチ・悪いスピーチとは何かを発見する対話的活動を行う。 	<p>一段階高まったスピーチに向けて建設的な討論ができる。</p> <p>（観察・ワークシート）</p>
	6	<p>知恵を寄せ合う話合いを行う。</p> <p>自分たちのスピーチを相互評価するための「判断基準表」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で行ったスピーチの考察を、クラスの意見とまとめて、一覧表にし、それを基に、自分たちの英語力とスピーチする力を確かめながら、「判断基準表」を考 	<p>話合いに積極的に参加している。</p> <p>（観察・作品）</p>

生 か す 過 程			え出す。これは、自分たちが実際に行うスピーチを行う際に相互評価をするための具体的・客観的な評価の指標であることを強調し、意識させる。	
	7	発表原稿を作る。	<p>相互交流型のスピーチの原稿作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、英語の文法的ミスにはあまり触れず、なんとか「伝えようとする」気持ちで、相互交流型のスピーチ原稿を作るのが大切であることを繰り返し強調し、生徒に安心感を与える。 ・スピーチとしては単語の列挙もよしとすることを伝える。 ・長く、複雑な日本語は単文にする。 ・基本文一覧表を生徒の英語表現レベルに合わせて活用させる。 ・I think ～.や Because ～の英文は、思いや考えが正確に伝わるスピーチ原稿になりやすいことを知らせる。 	<p>学習のねらいを明確にもち、工夫したスピーチ原稿を作ることができる。</p> <p>(観察・作品)</p>
	8			
	9			
10	1	<p>発表会を行う。</p> <p>・一人の発表時間2分間で、質疑応答・感想交流の時間を1分間確保する。</p> <p>・グループ全員のスピーチ終了後、感想交流し、自己評価を行う。</p>	<p>相互交流型スピーチを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしいという気持ちを払拭させるため、スピーチを行う前に、全員一斉に壁に向かって声を出して音読する活動を取り入れる。 ・英語のスピーチ経験がない実態から、不安な気持ちを軽減するために7人～8人の小グループ4つ作り、クラスを分割する。 スピーチ後の質疑応答・感想交流を行う。 ・スピーチ後に質疑応答と付箋紙を活用した意見を書く感想交流の時間を設定し、友達のがんばりや、優れている点を共有をさせる。 ・友達からの意見を参考にして、自己評価シートに自分のスピーチ発表を感想としてまとめ、自己のスピーチを振り返る活動を行う。 	<p>伝達技能に工夫をし、伝えたい内容を表現できる。</p> <p>(観察・ビデオ記録)</p> <p>友達のスピーチを聴き、感想や意見をまとめられる。</p> <p>(ワークシート)</p>

本時の学習

1 学習目標

工夫されたスピーチとはどんなものか英語と日本語で具体的・客観的に認知できる。

2 準備

ワークシート、授業計画表、自己評価・相互評価シート、テーブルコーダー、

3 展開

分	学習活動	指導上の留意点	評価項目
3	本時のゴールを理解する 本時の活動内容を知る。	本時のゴール、活動内容について要点を示したワークシートを示して授業説明をする。	本時の学習内容と目的をつかむことができる
15	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの題は「スピーチはなぜ大切か」である。 ・JTE は日本語で下手なスピーチを演じる。 ・ALT は英語で模範的なスピーチを演じる。 教師がいくつかのパターンのスピーチを紹介する。一つは日本語、もう一つは英語生徒はそのスピーチの長所・短所をワークシートに記入しながら聞き取る。 二人の教師が示したスピーチでどんな点が工夫されていたのかを見つけ出す話し合い活動を行う。	生徒の立場になってスピーチの技能的側面の長所・短所を示すようにする。	工夫されたスピーチの効果を見つけ出すことができる。 良いスピーチと悪いスピーチの違いをはっきりと区別できるような話し合い活動に取り組める。 (観察・ワークシート)
20	ブレンストーミング法とKJ法を活用して、工夫されたスピーチとはどんなものか考えを寄せ合う話し合い活動を行う。 (6人1グループ)	「クイズ形式」「質問コーナー」「賛同の意見に挙手」「非言語の有効活用」「実物提示」などのスピーチの存在に気づかせる。 ・生徒がこれらのスピーチの存在を見つけられなかった場合には、教科書を模範スピーチを解説する。 ・さらに、討論活動中に工夫されたスピーチのスタイルが見つけたグループに関しては、その都度黒板に工夫されたスピーチのスタイルを貼らせるようにする。	自分たちの思いや考えをより明確に伝える技法を考え出し、一段高まったスピーチ作成に向けて、建設的な話し合いができる。 (観察・ワークシート・自己評価・相互評価シート)
5	質問したり、自分の意見を述べている箇所を探す活動を行う。	教科書の本文(主人公のスピーチを音読する。)主人公がスピーチで工夫している点に下線を引かせる。	英文が読める。 工夫している点を探し出すことができる。 (ワークシート)
7	自己評価・相互評価シートの記入	自己評価・相互評価シートに自分なりに頑張った点、友達の優れていた点、頑張っていた様子などを記入させる。	本時の学習を振り返ることができる。 (自己評価・相互評価シート)